

にじ色の魚を作ろう

刈谷市立富士松南幼稚園（愛知県刈谷市）

【4歳児】

事例 水性ペンと水との未知との出会いが心を動かす 4歳児 7月上旬

<導入>

「にじ色の魚」の手作り絵本を読む。「だんだん、きれいな、にじ色の魚になった」という部分では白い色の魚を用意し、そこに水性ペンで「おしゃれな模様を塗ります」と言いながら色を付け「魔法の水を持ってきました」と言いながら、はけで水を塗ってにじませ、実際に幼児の目の前で、色がにじんで「にじ色の魚」に変わっていくところを見せる。

食い入るように見ていた幼児は、色が変わっていく様子を見て、口々に思いを声に出した。

<展開>

早速、ペンを持つと魚に丸や線を描いたり、色を塗ったりして模様を描く。

A児：「私は、いろんな色で塗ろう」

B児：「丸いの描いたよ」

C児：「いっぱい、いっぱい描くんだ」

D児：「混ざるかな」

E児：「いっぱい混ざるとききれいになると思うよ」

保育者：「どんな素敵な魚になるか楽しみだね」

水をにじませるコーナーに来ると、

F児：近くにいる保育者に「いい？やるよ」

という感じで、顔を見てからにじませる。

保育者：「どうなるかな」と一緒に見守る。

F児：「わー、変わった」

保育者：顔を見合わせる。「赤色がこっちにも広がったね」その会話を聞いて、近くにいる幼児も覗き込む。

「きれい」「混ざった」「わー」と喜ぶ幼児が多い中、

G児：「あれ？色が変わらない」とつぶやき、隣のI児を見る。

I児は、隙間なくペンで塗ったため、にじむ様子が分からず色がはみ出した。

それを見て

G児：「色のはみ出した」と言い、

また別の幼児を見て

G児：「Jちゃんは赤がいっぱい」

G児：「Hちゃんは色が混ざった」

保育者：「いろいろな魔法がかかったね」

G児：「うん、魔法がかかった」

保育者の読み取り

わーきれい！すごい

不思議！変わった

私もやってみたい

それぞれが、素敵にしようとしている。どんな模様になるか期待して描いているみたい。

わくわくする気持ちを保育者にも共感して欲しいんだな

G児はきれいになるということを期待していたが、一色で塗ったのににじんでも色の混ざり合いがなかった。期待とは違って、色が混ざらなかったため、意外な感想をもったようだ。

G児は自分の予想と違ったことで「あれ？」と立ち止まり、他の児の様子を見てどうしたことなのか、考えようとしたようだ。

自分の考えていたこと以外にいろいろなじ色があることに気付いたようだ。

保育室に海に見立てた壁面を用意すると、幼児は自分の魚を飾りつけた。たくさん魚ができあがると、自分の魚を見たり、友達の魚を見たりした。自分の魚を見ながら「ここ、同じだね」「色がいっぱい」「きれいだね」「あお組の海だね」と、隣の幼児の魚を見て比べたり、感想を言葉に出したりして、いろいろな「にじ色」があることを感じ伝え合っていた。

ここは、私と同じだね

Aちゃんのは、
いろんな色だね

色のはみ出しているね

Bちゃん、
混ざって
きれいだね

どこに
泳がそう
かな

<考察>

- ・導入で、実際に目の前で色が変わっていくという瞬間を見たことや「おしゃれな模様」「魔法の水」という幼児にとって魅力のある言葉を聞いたことで、幼児はそのことに注目し気持ちをわくわくさせ、“すごい”や“やってみたい”という気持ちを高めることとなった。また、実際に目の前で色が変わっていくという瞬間を見たことで、模様を描く時に「自分のはどうなるかな」と期待感を膨らませたり、できあがりを想像したりして、楽しく水をぬることができた。
- ・今までに使ったことのある水性ペンや水であるが、今回、両方の性質を生かし単独でなく合わせて使うことで、今までにない未知との出会いを体験した。二つの物の出会いにより、色が“にじむ”“混ざる”という現象を起こした。このことが、幼児の「不思議」「なぜ？」を引き出し、“やってみたい”“どうなるのかな”という好奇心や期待感を膨らませていった。
- ・幼児が想像したことと違う状況になった時に「あれ？」という不思議な気持ちが沸いた。予想を立てたこととの違いに出会ったことで「どうして？」と考える機会になり「これはどういうことなんだろう」と考えたり、周りの幼児のはどうなっているのかなと見たりして、次のことを考え、行動を起こすということにつながっていった。保育者は、幼児が感じていることを言葉に出しながら一緒になって感じていき、幼児が感じたことを頭であれこれめぐらすようにすることが必要である。

みどころ

「魚を描こう」というめあてやイメージのある遊びで自分の思いをのびのびと表現することによって、「科学する心」が育まれていくことが期待できます。この事例のように、自分の行為によって生じる目の前の出来事（現象）に「不思議」「なぜ？」と感じながら、興味深く表現を楽しむことを通しても「科学する心」が育まれます。友達と同じ場がかかわり、刺激し合っている環境や保育者の導入での指導の工夫なども、主題に迫る大事なポイントです。